

魔法のプロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 境 希美

所属: 北九州市立八幡西特別支援学校

記録日: 2023年 2月 20日

キーワード: 肢体不自由、生活リズムの形成、人との関わり、観察

【対象生徒の情報】

・学年

中学部1年生 女子生徒

・障害名

脳性麻痺、てんかん、先天性気管軟化症

・障害と困難の内容

〈身体機能面〉

・医療的ケアを行なっている生徒である。常時モニターを付け、SpO2と脈を測り、身体の状態が分かるようにしている。
 ・食事、排泄、移動、着替え、姿勢変換等は基本的に全介助である。自力での移動が困難であるため、車椅子で生活している。

・経鼻経管栄養であるが、経口摂取も行なっている。

・視力については、校内での検査時に遠くにある具体物に気付いたり、追視をしたりする様子が見られている。

・発作が頻発する。発作が起こる原因は定かではない。

・姿勢変換時に咽せることが多い。



・睡眠のリズムが不規則であり、一日を通して眠っている時間が長い。一度深い眠りについてしまうとなかなか起きることができない。



・緊張が入ると、両腕を曲げて力を入れ、顔を右に向けることが多い。

・緊張による強み、こわばり等の改善や、発作を抑える薬、入眠困難の改善に用いられる薬など数種類を服用している。

〈コミュニケーション面〉

・表出手段が少ない。

・名前を呼ぶとタイミング良く小さな声が出ることがあるが、確実ではない。

・慣れた人に話しかけてもらうことや、抱っこされることを好む様子が見られるが、相手に伝わりづらい。



〈認知面〉

・関わりの少ない教師から声をかけられると、目を逸らしたり目をキョロキョロさせたりする様子が見られる。

(視覚・聴覚)

・苦手なこと(慣れない物、騒がしい環境、苦手な人など)があると眉間にしわを寄せたり、目を閉じたりすることがある。

(視覚・聴覚)

・食べることを好む様子が見られるが、好きな食べ物と嫌いな食べ物がはっきりとしており、嫌いな物は口の動きが減ったり、口から出したりして食べたがらないことがある。(味覚)



【活動目的】

・当初のねらい

〈今年度の学習目標〉

- ① 快、不快の表出パターンを知る。
- ② 身体力を抜き、リラックスして過ごすための環境調整を行う。
- ③ 特定の人に拘らず好きな活動や環境の中で、関わりや興味の幅を広げる。

・実施期間 令和4年4月14日～令和5年3月24日まで

・実施者 研究者、共同研究者、学級担任

・実施者と対象生徒の関係 学級担任

【活動内容と対象生徒の変化】

・対象生徒の事前の状況

〈身体機能面〉

睡眠のリズムが不規則であり、一日を通して眠っている時間が長い。



基本的にウトウトして眠そうに過ごしていることが多く、眠くなる時間やリズムも定まっていない。深い眠りにつく前であれば、声かけや音、揺れなどで起きることが多いが、またすぐにウトウトしてしまう。一度深い眠りについてしまうと、最低でも1時間は眠り続け、起きることができない。

➔ 睡眠のリズムを知ること、もっと学習に参加できるようになってほしい。

身体に緊張が入ってしまうことが多い。



様々な要因から身体に緊張が入ってしまう。緊張が入ると、両腕を曲げて力を入れ、顔は右を向くことが多い。

➔ 身体力を抜いてリラックスできる時間を増やしたい。

リラックスできる手段や方法を見つけたい。

〈コミュニケーション面〉

表出手段が少なく、相手に伝わりづらい。



発声や身体の動きなどが少なく、静かに過ごしていることが多いため、サインが見つげづらく、対象生徒の思いが教師や友達に伝わりづらい。

➔ 快、不快のサインに気づき、好きなことをたくさん見つけたい。

〈認知面〉

関わりの少ない教師から声をかけられると、目を逸らしたり目をキョロキョロさせたりする様子が見られる。



慣れない人が近くに来ると目を逸らしたり、キョロキョロさせたり、目を閉じたりする様子がよく見られることから、活動の幅や関わりが狭くなりがちである。

➔ 特定の人に拘らず、関わりや興味の幅を広げたい。

・活動の具体的な内容① 「睡眠のリズムを知ることで、もっと学習に参加できるようになってほしい。」

〈使用した機器〉 iPad



〈使用したアプリ〉 カメラ、Excel

〈時間帯〉 対象生徒が睡眠に入った時間。下校後。

対象生徒の睡眠リズムを探り、学習時間の確保に繋げるためにカメラアプリや Excel アプリを使って記録した。

表1 〈睡眠の記録 4月〉

2	日付	曜日	時間帯	ウトウトレベル	その他
3	4月14日	木	—	少	
4	4月15日	金	—	多	
5	4月18日	月	—	多	
6	4月19日	火	—	多	
7	4月20日	水	—	多	
8	4月21日	木	—	多	
9	4月22日	金	—	多	
10	4月25日	月	—	多	
11	4月26日	火	—	多	
12	4月27日	水	—	多	
13	4月28日	木	10:00~11:40	多	入学後初めて長時間眠った。

表2 〈睡眠の記録 9月〉

2	日付	曜日	時間帯	ウトウトレベル	その他
3	9月1日	木	—	多	
4	9月2日	金	—	多	
5	9月5日	月	—	多	
6	9月6日	火	—	—	休校だったが、自宅まで起きなかったとのこと。
7	9月7日	水	—	多	
8	9月8日	木	—	多	
9	9月9日	金	—	多	
10	9月12日	月	—	多	
11	9月13日	火	—	多	
12	9月14日	水	—	多	
13	9月15日	木	10:00~11:30	多	2校時の音楽の時間に眠ることが多い。
14	9月16日	金	—	多	
15	9月20日	火	10:10~11:10	多	学校行事「ふれあいコンサート」中に眠ってしまった。
16	9月21日	水	—	多	
17	9月22日	木	11:40~13:40	多	午前中(10:00頃からウトウトが続いたが、なかなか深い眠りに入れない様子。給食前から深く眠ってしまい、食事は経口摂取することができず、経鼻からの注入となった。(今年度2回目)

4月から継続して、睡眠のリズムを記録した。入学してすぐの4月は新しい環境に慣れないことから、深い眠りにつくことも少なかったが、記録を続けていくと、週に1~2回午

前中に、最低1時間程の深い眠りについてしまっていることが分かった。自宅での睡眠時間は、21時~6時半の時間(9時間半程度)で眠っていることが多い。記録を続けていくと、特に、毎週木曜日の音楽の授業中に眠ることが多いということも見えてきた。対象生徒に合った学習時間を確保するために、睡眠における「ウトウトレベル」の尺度をより明確にする必要があることも分かった。

表3 〈睡眠の記録 11月〉

2	日付	曜日	時間帯	ウトウトレベル	その他
3	11月1日	火	9:10~12:00 14:10~14:50	レベル1 レベル1	
4	11月2日	水	10:00~10:40 10:40~11:30 13:30~14:00	レベル1 レベル2 レベル1	
5	11月4日	金	11:30~12:10 13:30~14:00 14:00~14:50	レベル1 レベル1 レベル2	顔を左側に寄せ、顔全体(特に口)をぎゅっと歪める仕事があった。
6	11月7日	月	登校~11:20 11:30~12:00 13:40~15:00	レベル3 レベル1 レベル1	
7	11月8日	火	13:40~15:00	レベル1	
8	11月9日	水	13:40~14:00	レベル2	
9	11月10日	木	9:10~9:50 9:50~11:00 11:30~12:00 14:00~14:30	レベル2 レベル3 レベル1 レベル1	9:10~の時間帯で顔を左側に寄せ、顔全体(特に口)をぎゅっと歪める仕事があった。
10	11月11日	金	11:30~12:00 13:40~15:00	レベル1 レベル1	
11	11月14日	月	13:30~14:00	レベル1	進路学習週間
12	11月15日	火	10:00~10:40 13:30~14:10	レベル1 レベル2	
13	11月16日	水	13:30~14:00	レベル1	
14	11月17日	木	10:00~11:00	レベル2	
15	11月18日	金	13:30~14:00	レベル1	
16	11月21日	月	13:30~14:00	レベル1	
17	11月22日	火	13:30~14:00	レベル1	
18	11月24日	木	10:00~10:40 13:30~14:10 14:10~15:00	レベル2 レベル1 レベル2	
19	11月25日	金	9:30~11:50	レベル3	
20	11月28日	月	13:30~14:10	レベル1	
21	11月29日	火	11:00~11:30 13:40~14:10	レベル1 レベル2	SpO2低め(93~94が続く)
22	11月30日	水	—	—	体調不良のため欠席

表4 〈睡眠の記録 1月〉

2	日付	曜日	時間帯	ウトウトレベル	その他
3	1月10日	火			後期後半授業開始。午前中授業。眠そうにすることはなかった。
4	1月11日	水			眠そうにすることはなかった。
5	1月12日	木			眠そうにすることはなかった。
6	1月13日	金	登校~12:50	レベル3	登校時からずっと眠り続け、給食を食べることができず、経鼻より注入を行った。(今年度3回目※12月の体調不良を除く。)
7	1月16日	月	9:10~10:40 13:30~14:10	レベル1 レベル1	
8	1月17日	火	9:10~12:00	レベル3	
9	1月18日	水	9:10~9:50	レベル1	
10	1月19日	木	9:10~12:00 12:15~13:00 14:10~15:00	レベル1 レベル2 レベル1	
11	1月20日	金	11:40~12:00	レベル1	
12	1月23日	月	14:00~14:40 14:40~下校	レベル2 レベル3	
13	1月24日	火	—	—	天候不良(雪)のため欠席
14	1月25日	水	—	—	休校
15	1月26日	木			眠そうにすることはなかった。
16	1月27日	金	14:45~下校	レベル2	
17	1月30日	月	11:00~11:30	レベル1	
18	1月31日	火	13:30~14:10	レベル1	

10月下旬からは、より明確に睡眠のリズムを知るために、睡眠におけるウトウトレベルの尺度をレベル1~レベル3までに分類することとし、基準については以下のようにした。

「ウトウトレベル1」… 時折目を閉じ、眠たそうにしているが、自力で起きることができている。

「ウトウトレベル2」… 目を閉じ、眠り始めているが、他者からの声かけや刺激があると起きることができている。

「ウトウトレベル3」… 眠ってしまい、他者からの声かけや刺激があっても起きることができない。(深い睡眠)

【図1】



カメラアプリで写真や動画を撮影し、記録をとることで、深い睡眠(ウトウトレベル3)に入る前には、顔を左側に寄せ、顔全体(特に口)をぎゅっと歪める仕草が短時間に何回も続く様子が見られることが分かってきた。このとき、身体の緊張も強い様子が見られる。午前中に多く見られ、このまま深い睡眠に入ってしまうと給食も食べ逃してしまう。



もっと学習に参加できたいいな。大好きな給食も食べてほしい。深い睡眠を避ける方法はないかな…?

・対象生徒の事後の変化①

カメラアプリで写真や動画を撮影しながら記録をとることで、対象生徒の眠くなる教科や時間帯、頻度が少しずつ見えてきた。特に、時間割に赤で示した部分は、覚醒が低い頻度が高かったため、対象生徒に合わせた学習内容を再検討しながら、学校生活のリズムを定着させることができるよう努めた。その結果、12月頃から、学校で過ごす間、一度も眠そうにすることなく、過ごすことができた日が見られるようになった。

〈本校中学部Ⅳ課程時間割〉

	月	火	水	木	金
1	日常生活の指導				
2	総合学習	保健体育	総合学習	音楽	自立活動
3	総合学習	保健体育	総合学習	自立活動	自立活動/ 集団自立
4	自立活動				
給食・昼休み					
5	自立活動/ 集団自立	音楽	自立活動	自立活動/ 総合的な学習	自立活動
6	自立活動	自立活動		学級活動	自立活動/ 集団自立

木曜日2校時の音楽の時間は、睡眠のレベル1~3の広範囲に渡って覚醒が低いことが多い。午前中に深い眠りについてしまわないように、3校時の自立活動では、音や振動など刺激を感じながら活動できる学習内容にしよう。

【図2】

電動カーを使った活動



〈睡眠の記録 12月〉

日付	曜日	ウトウトレベル	その他
12月14日	水	2	眠そうにすることはなかった。給食は3分の2程食べることができた。牛乳の量を調整した。
12月19日	月	2	眠そうにすることはなかった。
12月20日	火	2	眠そうにすることはなかった。
12月21日	水	2	眠そうにすることはなかった。

〈睡眠の記録 1月〉

日付	曜日	時間帯	ウトウトレベル	その他
1月10日	火		2	後期後半授業開始。午前中授業。眠そうにすることはなかった。
1月11日	水		2	眠そうにすることはなかった。
1月12日	木		2	眠そうにすることはなかった。
1月26日	木		2	眠そうにすることはなかった。

〈睡眠の記録 2月〉

日付	曜日	ウトウトレベル	その他
2月7日	火	2	眠そうにすることはなかった。

毎日、給食の後は眠くなる様子が見られる。睡眠のレベルは、レベル1~2の様子が多く、深い眠りに入ることは少ない傾向。食後は、側臥位姿勢をとりながらリラックスできる音楽を聴き、20分程ゆっくりと過ごせる時間を作って、体力が回復できるようにしよう。



一度もウトウトすることなく過ごせた覚醒が高い日には、このイラストを記録するようにした。

4月~11月までの間は学校生活を過ごす中で、毎日眠たそうにする様子が見られていたが、12月頃から少しずつ中学部での学校生活に慣れてきた様子が伺える。

・活動の具体的内容② 「身体の力を抜いてリラックスできる時間を増やしたい。」
「リラックスできる手段や方法を見つけたい。」

〈使用した機器〉 iPad

〈使用したアプリ〉 カメラ、Yonde、歩く動物、あそべビー、Magic Zither、YouTube、ピアノ



〈時間帯〉 自立活動の時間(1日1コマ 40分程度)

身体に緊張が入る要因は、音、揺れ、音楽、握手をされる、慣れない人が近くに来るなど様々であるが、活動内容によっては力が抜け、リラックスできる様子も見られる。そこで、iPad で様々なアプリを使って、どんな活動にどのような反応や表出が見られるのかを探ることとした。

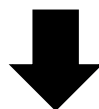
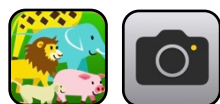
～ある日の様子①～

【図3】



Magic Zither アプリを使って、箏の音を聞いたところ、舌をペロペロと出したり、音のなる方を気にしたりして、聴いている様子が見られた為、YouTube アプリで箏の演奏を聴いてみることにした。その結果、iPad の画面をじっと見つめ、心地良さそうに過ごす様子が見られた。

【図4】

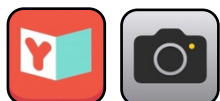


箏の音や音楽が好きかどうかをさらに詳しく探るために、途中で箏の演奏を止め、違う音楽をならしてやることとした。ここでは、歩く動物アプリを使用した。

すると、突然、大きな声を出し、身体に力を入れ、不快を伝えているような様子が見られた。歩く動物アプリからなる音楽を止め、しばらくすると大きな声を出すことをやめ、緊張も少し緩んだ。

～ある日の様子②～

【図5】



給食前に、伏臥位姿勢をとる習慣があるが、近くに慣れた人がいないと全身に力を入れ、身体を反らせることが多々ある。

そこで、Yonde アプリを使って、慣れた教師の声を録音した絵本を作成し、伏臥位の時間に対象生徒の側で再生してみることにした。

すると、力を入れずリラックスして伏臥位姿勢をとることができた。

【図6】



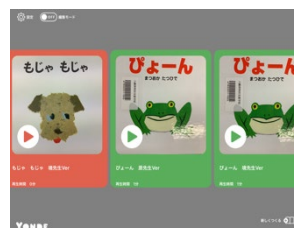
人の声と人の声以外の音とでは、違いに変化があるかどうかを知るために、ピアノアプリを使用して音を鳴らしてみることにした。

すると、腕に力を入れ、身体を反らそうとする様子が見られた。

★ Yonde アプリを使った絵本の作成について

人の声を聞いてリラックスできているのかどうかを判断するために、絵本を作成するときは、「慣れた教師の声と慣れない教師の声」や「女性の声と男性の声」など同じ内容の絵本で2種類の物を作成するようにした。

【図7】



・活動の具体的内容③ 「快、不快のサインに気付き、好きなことをたくさん見つけたい。」

〈使用した機器〉 iPad

〈使用したアプリ〉 カメラ



〈時間帯〉 月曜日の自立活動の時間(2時間 40分×2コマ程度)

表出のサインを探るために、快、不快が出やすいと思われる活動を設定し、反応や様子を観察した。

～感触遊びの様子「粘土」～

【図8】活動の始め

(右眉の上にしわが寄る)



【図9】活動の中盤

(表情が柔らかい)



同じ粘土を使った感触遊びでは、活動の始めと中盤とで表出が変わる様子が見られた。保護者にも教えてもらっていたことではあったが、嫌なことがあると右眉の上にしわが寄ることが多いという様子も明確に見えてきた。また、活動に慣れるまでに時間がかかるという実態も見えてきた。

～感覚遊びの様子「グレープフルーツの香り」～

【図10】



日頃から、食べることに意欲的な様子が見られているため、対象生徒が好みそうな匂いがする、アロマオイルを使用し、匂いに対する様子を観察した。

グレープフルーツのアロマオイルを花紙に垂らし、鼻に近付けると、舌をペロペロと出し、匂いのする方をしっかりと見る様子が見られた。その他のミントやカモミールなどの匂いには、舌をペロペロとする様子は見られなかった。

～感覚遊びの様子「トランポリン」～

【図11】



トランポリンやオーシャンスイング、ボルスターなど揺れを感じることができる感覚遊具遊びでは、柔らかい表情で活動を楽しむ様子がよく見られる。活動中に舌をペロペロとする快の表出が見られることもある。揺れを感じる活動では、早い段階で、快の表出が見られることが多く、これまでの経験から揺れを感じる活動に慣れ、好きな活動として捉えている可能性があると考えられる。

～感覚遊びの様子「暗い部屋」～

【図12】 ①・② 静かな暗い部屋

③ 明るい部屋で慣れた教師に話しかけられた様子

①



②






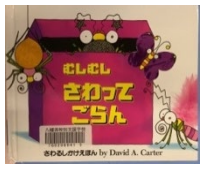

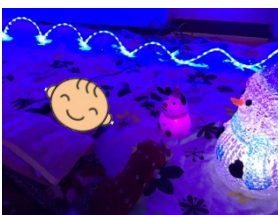



③



①・②と③では、表情に明らかな違いが見られた。暗く静かな部屋では、眉間にしわが寄り不安そうにしていたが、状況が変わると快の表出が見られた。

対象生徒の事後の変化②・③

このように様々な活動の様子をカメラアプリで観察し、対象生徒の快の表出が見られることが多いもの(リラックスして活動に参加できる)と、不快の表出が見られることが多いものを整理することとした。

<p>快の表出が見られることが多い </p> <p>サイン(舌をペロペロと出し入れする・柔らかい表情・優しく小さな声が出る など)</p>	<p>不快の表出が見られることが多い </p> <p>サイン(眉間にしわが寄る・緊張が強くなることがある・大きく泣いたような声が出る など)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 静かな音 ○ オルゴールの音楽 ○ 綿のようなフワフワした素材 <div data-bbox="231 627 662 795" style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 犬のぬいぐるみ(動き・鳴き声) ○ ぬいぐるみの柔らかい感触 ○ ブルブルした感覚を感じられる玩具 ○ 揺れを感じられる感覚遊具 (オーシャンスイング・トランポリン・ボルスター・ラージボール など)  <ul style="list-style-type: none"> ○ イルミネーション  <ul style="list-style-type: none"> ○ 慣れた人に話しかけられること ○ 食べること(特に甘い食べ物) ○ 食べ物の匂い  <ul style="list-style-type: none"> ○ 抱っこされること  	<ul style="list-style-type: none"> ○ 騒がしい音・声・音楽 ○ 大きな音・声 ○ 吸引器の音 ○ 暗い部屋 ○ 慣れない部屋(教室) ○ 初めての活動 ○ 関わりが少なく慣れない人(特に大きな声の男性) ○ お茶を飲むこと ○ 立位台に立つこと <div data-bbox="1236 873 1396 1030" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="837 1131 1444 1556" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>慣れない人、場所、活動など経験が少ないことに対して不快な表出が多いことが分かった。結果、関わりや興味の幅を広げることに困難さが見られている可能性が考えられる。</p> <p>これらのことから、活動経験が少ない場所で関わりが少ない人と関わり、対象生徒が好きな活動を一緒に楽しめるようにするといった場면을学習の中で意図的に設定することにした。</p> </div>

・活動の具体的内容と対象生徒の事後の変化④ 「特定の人に拘らず、関わりや興味の幅を広げたい。」

〈使用した機器〉 iPad、視線入力装置（トビー）

〈使用したアプリ〉 カメラ、DropTap、GoodNotes、YouTube



〈時間帯〉 水曜日の自立活動の時間（1時間 40分×1コマ程度）

慣れない人が近くになると目を逸らしたり、キョロキョロさせたり、目を閉じたりする様子がよく見られることから目からの情報が多いのではないかと考えた。➡ 目を使うことは、対象生徒にとって得意なことではないか…？

～視線入力装置（トビー）を使った活動の様子～

【図13】 学習の様子



視線入力装置（トビー）を使って、対象生徒の視線の動きを探ることとした。追視すると音が鳴ったり、視線が動くと絵が出てきたりする学習では、興味をもって取り組む様子も見られたが、5分～10分程で眠くなってしまふ様子が多く見られた。（ウトウトレベル1～2）視線入力装置は、主体的に活用しなければならない部分が多い道具であり、外界からの刺激が少ないことが眠くなってしまふ原因の一つとして考えられる。しかし、視線入力装置の活用から、様々な情報を目から得ることは、対象生徒の得意とすることであると考えられることができた。

【図14】 視線の足跡

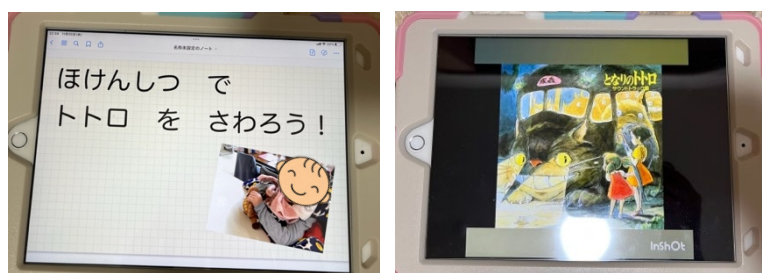


緊張が入っていないリラックスした状態では、顔を左側に向けていることが多いが、視線も左を見ていることが多いが、教師の声かけや指差しなどで様々な方向を見ることができていることも分かった。

これらのことから、目で見て普段過ごしている場所との違いに気付き、慣れない人と関わりながら、対象生徒の好きな活動を行なう場面の設定として、「健康観察係」の活動を取り入れることにした。

～GoodNotesとDropTapを使った系の仕事の様子～

【図15】 めあての提示と出発の音楽



本時のめあてはどこでも確認できるように GoodNotes アプリを活用して iPad で提示するようにした。活動の始まりを意識できるように、系の仕事を始めるときは必ず「となりのトトロ」の音楽を流すようにした。

【図16】 DropTap での評価と活動を楽しむ様子



保健室に到着し、健康観察簿を手で握ったり、押ししたりしながら箱に入れ、渡すことができたか、できなかったかを基準として、養護教諭に評価してもらった。評価の仕方としては、DropTap のアプリを使用し、画面をタップして「○」か「×」かの2択で評価をしてもらうようにした。「○」をタップすると、「ピンポンピンポンピンポーン!」「×」をタップすると「ブブー!」という効果音が鳴るように作成し、対象生徒が評価を意識できるようにした。「○」の評価をもらった日は、好きなぬいぐるみを触らせてもらったり、ブルブルと震えるぬいぐるみで養護教諭と一緒に遊んでもらったりして、少しずつ楽しい経験を積めるようにした。初めの頃は、保健室に到着しても目を閉じたり、眉間にしわを寄せたりする様子が見られていたが、少しずつ係の仕事に慣れ、養護教諭の顔を見て一緒に遊ぶことができるようになってきた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

当初のねらい

〈今年度の学習目標〉

- ① 快、不快の表出パターンを知る。
- ② 身体の力を抜き、リラックスして過ごせるための環境調整を行う。
- ③ 特定の人に拘らず好きな活動や環境の中で、関わりや興味の幅を広げる。

これらの学習目標を達成するために、今年度は活動の具体的内容として①～④を設定した。

- ・活動の具体的内容① 「睡眠のリズムを知ることで、もっと学習に参加できるようになってほしい。」
- ・活動の具体的内容② 「身体の力を抜いてリラックスできる時間を増やしたい。」
「リラックスできる手段や方法を見つけたい。」
- ・活動の具体的内容③ 「快、不快のサインに気づき、好きなことをたくさん見つけたい。」
- ・活動の具体的内容④ 「特定の人に拘らず、関わりや興味の幅を広げたい。」

活動の具体的内容①については、Excel アプリを活用して毎日睡眠の記録をつけることで、対象生徒の学校生活での睡眠のリズムが具体的に見えてきた。見えてきた結果を時間割に照らし合わせ、学習内容を再検討することもできた。結果、少しずつではあるが、中学部に進学した対象生徒を中学部の学校生活のリズムに乗せることができた。また、一度も眠そうにすることなく、学校生活を過ごせる日も見られるようになった。

活動の具体的内容②・③については、カメラアプリを活用して、対象生徒を観察することを中心に行なった。iPad のアプリを使った活動や感覚遊び、感覚遊具などを使った活動などを写真や映像で記録し、対象生徒の快や不快の表出から、好きな活動や苦手な活動を整理することができた。そこから見えてきた好きな活動を生かして、関わりや興味の幅を広げる手段を見つけることができた。

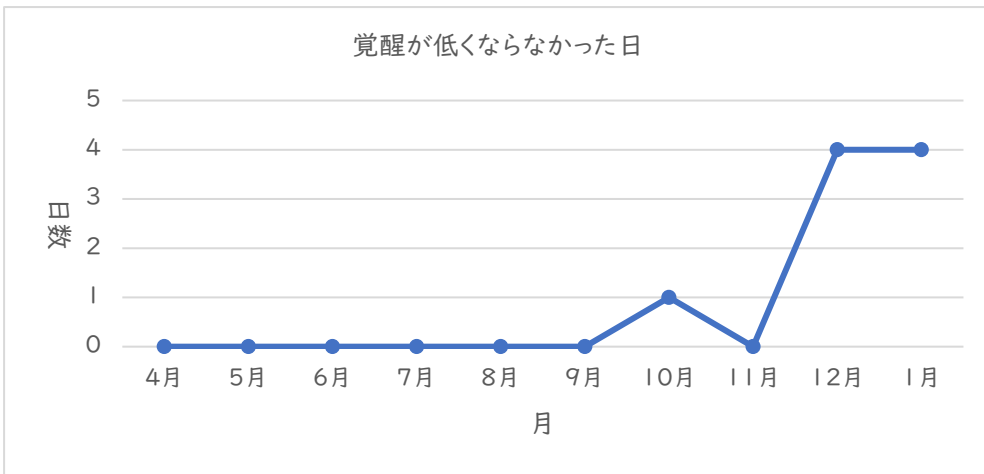
活動の具体的内容④については、活動の具体的内容①・②・③の結果から睡眠のリズムに合った学習内容、好きな活動、苦手な活動を活かした学習を取り入れ、関わりや興味の幅を広げる学習に取り組むことができた。活動に慣れるまでに、時間がかかるという実態もあるが、毎日少しずつ取り組むことと、好きな活動を組み合わせることで、慣れない人の前でも目を閉じたり、眉間にしわを寄せたりすることなく、一緒に遊ぶ様子が見られるようになった。



快の表出に気付けることも増えてきた!



・エビデンス



学習内容を見直すことで、覚醒が低くならず過ごせる日が見られるようになった。今後も多くの活動に楽しんで参加してほしい。



もっと学習に参加できるようになってほしいという思いから、睡眠の記録を毎日つけたことで、対象生徒の覚醒のリズムや覚醒が低くなるきっかけを探ることができ、学習内容を見直すことができた。学習に取り組むことができる時間が長くなることで、様々な快や不快の表出に気付くことができ、関わりの幅を広げるきっかけを作ることができた。

また、関わりや興味の幅を広げることに困難さが見られるという実態に対しては、今後さらに関わり手の工夫も必要であると感じることができた。対象生徒が少しでも新しいことに対して安心して挑戦することができるよう、様々な視点から関わり手の工夫を行なっていきたいと考える。

対象生徒の実態と向き合いながら、今後も少しずつ学習に取り組める時間を伸ばし、楽しんで活動に参加することができるよう継続して指導していきたい。

